



CALENDAR

2019/4～2020/3

●「このカレンダーの特徴」はこの表紙の裏にあります。 ● 祝日法の改正などにより、祝日・休日、またはその名称が変更になる場合があります。

●基礎医学器械 ●薬学研究器械

株式会社 夏目製作所

●実験動物飼育管理機器 ●理化学器械

<http://www.nazme.co.jp>

本社 〒113-8551 東京都文京区湯島2丁目18番6号 TEL. (03) 3813-3251 FAX. (03) 3815-2002 大阪支社 〒567-0085 大阪府茨木市彩都あさぎ7丁目7番18号 彩都バイオヒルズセンター3F TEL. (072) 646-9311 FAX. (072) 646-9300

このカレンダーは、前社長夏目克彦がさる大学の懇意な先生と懇談をしている際、4月から始まる年度カレンダーがあると便利なんですけどねというお話にヒントを得て、40年以上前から作製しているものです。

カレンダーは暦（こよみ）です。改めて暦の意味と日本の四季を再認識した上で実務上の便利さを考えて作製しております。より一層便利で使い易いものにしていきたいと思っておりますので、ご意見等がございましたら、お知らせくださるようお願い致します。

このカレンダーの特徴

- 予定等が書き込めるよう日付の枠内に余白を設定
- 日付の枠の交点が重ならないよう罫線の一部をカットすることによる交点の影の発生防止
- 週単位の予定管理の便利性を図るため、一週が月曜日から始まるものとし、前月末及び翌月始めの空欄にも網掛け文字で日付を掲載
- 業務に関連すると思われる行事や学会の予定の掲載（学会の予定は変わる場合もありますので、念のため、学会事務局にご確認ください）
- 古くからの日本のしきたりや薄れゆく季節感を忘れないため、二十四節季、雑節などの情報や六曜・十五夜・旧暦・国民の祝日を表記
- 遡（新月）●、上弦の月●、下弦の月●、望（満月）○をシンボルとして月次カレンダーに表記
- 月次カレンダーは、切り離さずに保管できるようリサイクル可能なペーパーリングを使用

旧暦 とは

一般に旧暦とは太陽太陰暦を表す。太陽太陰暦は月の動きによって1年の長さを決め太陽の動きにより調整する。月が太陽と同じ方向にあって、暗い半面を地球に向けている朔（新月）の日から、満月を経て次の朔の前日までを1暦月（1ヶ月）とする。この1暦月の平均の長さは29.5306日の為、1ヶ月が29日の小の月と30日の大の月を設けた。従って1年の長さは29.53日×12ヶ月＝354.3672日となるが、季節が巡る周期である1太陽年(365.2422日)より11日短いため、1暦月追加（閏月）し、13暦月にする年を19年に7回（閏年）設け、暦と季節が違うことを防いだ。次の年の暦を計算して決定するので、閏月を設けるかどうか、大小の月の並び方も毎年替わった。江戸時代には閏月や大の月、小の月の並び方を示す「大小歴」当時は「大小」とのみ呼ばれた暦が登場した。ただ大小の月を示すだけでなく、絵や文章の中に月の大小と配列を折り込み、工夫をこらして遊んだ。国立国会図書館の「日本の暦」というサイトに「大小」の事を始め暦に関する大変面白いページがあるので、アクセスしてみる事をお薦めする。<http://www.ndl.go.jp/koyomi/index.html>
旧暦の閏年は1年382日か383日となり、平年が354日か355日のため、毎年同じ月日の季節にならず、暦に季節の移り変わりを示す目印点として二十四節気を設けた。

十 五 夜

こよみのページ（<http://koyomi8.com/>）より引用させて頂きました。

旧暦八月十五日の月は「中秋の名月」「十五夜」と呼ばれます。旧暦では三ヶ月毎に季節が変わり、「七・八・九月」は秋、そしてそれぞれの季節に属する月には「初・中・晩」の文字をつけて、八月は秋の真ん中で「中秋」になります。ところで、旧暦八月十五日の中秋の名月を調べてみると、満月でないことが多いのです。旧暦の1日は「朔（新月）となる瞬間を含んだ日」ですので、0時0分に朔となる日も、23時59分になる日も同じく「一日」になります。朔（新月）から望（満月）までの平均日数は、約14.76日で、これが本当の満月の月齢の平均となります。また、月の軌道が円でないなどの理由から、朔から望までの日数は約13.8～15.8日の間で変化します。従って、旧暦八月十五日の月は満月で無いことの方が、実際には多くなります。「中秋の名月」は一種のお祭りですから、「八月の十五夜の月」として誰でもその日がわかることが重要なのです。やはり中秋の名月は「十五夜お月様」でなくてはなりませんよね。

2019 4



月	火	水	木	金	土	日
1 先 負	2 仏 滅	3 大 安	4 赤 口	5 先 負 清 明 旧三月大	6 仏 滅	7 大 安
8 赤 口 灌仏会・花まつり	9 先 勝	10 友 引	11 先 負	12 仏 滅	13 大 安 上弦	14 赤 口
15 先 勝	16 友 引	17 先 負 土 用	18 仏 滅 発明の日	19 大 安 望 衛生動物学会(山口)～21	20 赤 口 穀 雨	21 先 勝
22 友 引	23 先 負	24 仏 滅	25 大 安	26 赤 口	27 先 勝 下弦 核医学会(東京)～28	28 友 引
29 先 負 昭和の日	30 仏 滅 退位の日	1 大 安 即位の日 メーデー	2 赤 口 八十八夜	3 先 勝 憲法記念日	4 友 引 みどりの日	5 仏 滅 こどもの日 旧四月小 朔

株式会社 夏目製作所

<http://www.nazme.co.jp>

本 社 TEL. (03) 3813-3251 FAX. (03) 3815-2002
大阪支社 TEL. (072) 646-9311 FAX. (072) 646-9300



▶ HP へアクセス

2019 5



月	火	水	木	金	土	日
29 先 負 昭和の日	30 仏 滅 退位の日	1 大 安 即位の日 メーデー	2 赤 口 八十八夜	3 先 勝 憲法記念日	4 友 引 みどりの日	5 仏 滅 こどもの日 旧四月小 朔
6 大 安 振替休日 立 夏	7 赤 口	8 先 勝	9 友 引	10 先 負	11 仏 滅	12 大 安 母の日 上弦
13 赤 口	14 先 勝 発生物学会(大阪)～17	15 友 引 実験動物学会(福岡)～17	16 先 負	17 仏 滅	18 大 安	19 赤 口 望
20 先 勝	21 友 引 小 満 創業記念日	22 先 負 神経学会(大阪)～25	23 仏 滅	24 大 安	25 赤 口	26 先 勝
27 友 引 下弦	28 先 負 エビジェネティクス研究会 (横浜)～29	29 仏 滅	30 大 安 国動協(大阪)～31	31 赤 口	1 先 勝	2 友 引

株式会社 夏目製作所

<http://www.nazme.co.jp>

本 社 TEL. (03) 3813-3251 FAX. (03) 3815-2002
大阪支社 TEL. (072) 646-9311 FAX. (072) 646-9300



▶ HP へアクセス

2019 6



月	火	水	木	金	土	日
27 友 引 下弦	28 先 負 エビシエネティクス研究会 (横浜)～29	29 仏 滅	30 大 安 国動協(大阪)～31	31 赤 口	1 先 勝	2 友 引
3 大 安 旧五月大 朔	4 赤 口	5 先 勝	6 友 引 基礎老化学会(仙台)～8 芒 種	7 先 負	8 仏 滅	9 大 安
10 赤 口 FELASA(Praha)～13 時の記念日 上弦	11 先 勝 入 梅	12 友 引	13 先 負	14 仏 滅 公私動協(福岡) 獣医麻酔外科学会(大宮)～16	15 大 安	16 赤 口 父の日
17 先 勝 望	18 友 引	19 先 負	20 仏 滅 精神神経学会(新潟)～22	21 大 安	22 赤 口 夏 至	23 先 勝
24 友 引	25 先 負 下弦	26 仏 滅 毒性学会(徳島)～28	27 大 安	28 赤 口	29 先 勝	30 友 引 大 祓



2019 7



月	火	水	木	金	土	日
1 先 負	2 仏 滅 半夏生	3 赤 口 旧六月小	4 先 勝	5 友 引	6 先 負	7 仏 滅 小 暑 七 夕
8 大 安	9 赤 口 上弦	10 先 勝	11 友 引	12 先 負	13 仏 滅 ぼん迎え火	14 大 安 神経病理学会(名古屋) ～16 ぼ ん
15 赤 口 海の日	16 先 勝 ぼん送り火 やぶ入り	17 友 引 望	18 先 負	19 仏 滅	20 大 安 土 用	21 赤 口
22 先 勝	23 友 引 大 暑	24 先 負	25 仏 滅 神経科学学会(新潟)～28 神経化学会(新潟)～28 下弦	26 大 安	27 赤 口 土用の丑	28 先 勝
29 友 引	30 先 負	31 仏 滅	1 先 勝 旧七月小 朔	2 友 引	3 先 負	4 仏 滅

株式会社 夏目製佐所

<http://www.nazme.co.jp>

本 社 TEL. (03) 3813-3251 FAX. (03) 3815-2002
大阪支社 TEL. (072) 646-9311 FAX. (072) 646-9300



▶ HP へアクセス

2019 8



月	火	水	木	金	土	日
29 友 引	30 先 負	31 仏 滅	1 先 勝 旧七月小	2 友 引	3 先 負	4 仏 滅
5 大 安	6 赤 口	7 先 勝	8 友 引 立 秋	9 先 負	10 仏 滅	11 大 安 山の日
12 赤 口 振替休日	13 先 勝 月遅れぼん迎え火	14 友 引 月遅れぼん	15 先 負 望	16 仏 滅 月遅れぼん送り火	17 大 安	18 赤 口
19 先 勝	20 友 引	21 先 負	22 仏 滅	23 大 安 処 暑	24 赤 口	25 先 勝
26 友 引	27 先 負	28 仏 滅	29 大 安	30 友 引 旧八月大	31 先 負	1 仏 滅 二百十日 防災の日

株式会社 夏目製佐所

<http://www.nazme.co.jp>

本 社 TEL. (03) 3813-3251 FAX. (03) 3815-2002
大阪支社 TEL. (072) 646-9311 FAX. (072) 646-9300



▶ HP へアクセス

2019 9



月	火	水	木	金	土	日
26 友 引	27 先 負	28 仏 滅	29 大 安	30 友 引 旧八月大	31 先 負	1 仏 滅 二百十日 防災の日
2 大 安	3 赤 口	4 先 勝	5 友 引	6 先 負 上弦	7 仏 滅	8 大 安 白 露
9 赤 口 重 陽	10 先 勝 獣医学会(つくば)~12	11 友 引 心理学会(大阪)~13 二百二十日	12 先 負 動物学会(大阪)~14	13 仏 滅 十五夜	14 大 安 望	15 赤 口
16 先 勝 敬老の日	17 友 引	18 先 負	19 仏 滅	20 大 安 彼 岸 彼岸入り	21 赤 口	22 先 勝 下弦
23 友 引 秋分の日 秋 分 彼岸中日	24 先 負	25 仏 滅	26 大 安 彼岸明け	27 赤 口	28 先 勝 社 日	29 先 負 旧九月小 朔
30 仏 滅						

株式会社 夏目製作所

<http://www.nazme.co.jp>

本 社 TEL. (03) 3813-3251 FAX. (03) 3815-2002
大阪支社 TEL. (072) 646-9311 FAX. (072) 646-9300



▶ HP へアクセス

2019 10



月	火	水	木	金	土	日
30 仏 滅	1 大 安	2 赤 口	3 先 勝	4 友 引	5 先 負	6 仏 滅 上弦
7 大 安	8 赤 口 寒 露	9 先 勝	10 友 引	11 先 負 動物心理学会(神奈川)～13 十三夜	12 仏 滅	13 大 安 AALAS(Denver) ～17
14 赤 口 望 体育の日	15 先 勝	16 友 引	17 先 負	18 仏 滅 統計の日	19 大 安	20 赤 口
21 先 勝 下弦 土 用	22 友 引 即位礼正殿の儀	23 先 負	24 仏 滅 実技協(愛媛)～26 霜 降	25 大 安	26 赤 口	27 先 勝
28 仏 滅 朔 旧十月大	29 大 安	30 赤 口	31 先 勝	1 友 引 計量記念日	2 先 負	3 仏 滅 文化の日

株式会社 夏目製作所

<http://www.nazme.co.jp>

本 社 TEL. (03) 3813-3251 FAX. (03) 3815-2002
大阪支社 TEL. (072) 646-9311 FAX. (072) 646-9300



▶ HP へアクセス

2019 11



月	火	水	木	金	土	日
28 仏 滅 旧十月大	29 大 安	30 赤 口	31 先 勝	1 友 引 計量記念日	2 先 負	3 仏 滅 文化の日
4 大 安 振替休日	5 赤 口	6 先 勝	7 友 引	8 先 負 立 冬 一の酉	9 仏 滅	10 大 安
11 赤 口	12 先 勝	13 友 引	14 先 負	15 仏 滅	16 大 安	17 赤 口
18 先 勝	19 友 引	20 先 負 動物実験代替法学会(つくば) ～22 二の酉	21 仏 滅	22 大 安 小 雪	23 赤 口 勤労感謝の日	24 先 勝
25 友 引	26 先 負	27 大 安 旧十一月小	28 赤 口	29 先 勝	30 友 引	1 先 負

株式会社 夏目製作所

<http://www.nazme.co.jp>

本 社 TEL. (03) 3813-3251 FAX. (03) 3815-2002
大阪支社 TEL. (072) 646-9311 FAX. (072) 646-9300



▶ HP へアクセス

2019 12



月

火

水

木

金

土

日

25

友 引

26

先 負

27

大 安

朔

28

赤 口

29

先 勝

30

友 引

1

先 負

2

仏 滅

3

大 安

分子生物学会(福岡)～6

4

赤 口

上弦

5

先 勝

6

友 引

7

先 負

大 雪

8

仏 滅

9

大 安

10

赤 口

11

先 勝

12

友 引

望

13

先 負

14

仏 滅

15

大 安

16

赤 口

17

先 勝

18

友 引

19

先 負

下弦

20

仏 滅

21

大 安

22

赤 口

冬 至

23

先 勝

平成の天皇誕生日

24

友 引

クリスマスイブ

25

先 負

クリスマス

26

赤 口

旧十二月大

朔

27

先 勝

28

友 引

29

先 負

30

仏 滅

31

大 安

年越し・大祓

株式会社 夏目製作所

<http://www.nazme.co.jp>

本 社 TEL. (03) 3813-3251 FAX. (03) 3815-2002
大阪支社 TEL. (072) 646-9311 FAX. (072) 646-9300



▶ HP へアクセス

2020 1



月	火	水	木	金	土	日
30 仏 滅	31 大 安 年越し・大祓	1 赤 口 元 日	2 先 勝	3 友 引 上弦	4 先 負	5 仏 滅
6 大 安 小 寒	7 赤 口 七草・人日	8 先 勝	9 友 引 宵えびす	10 先 負 十日えびす	11 仏 滅 鏡開き 望	12 大 安
13 赤 口 成人の日	14 先 勝	15 友 引	16 先 負 やぶ入り	17 仏 滅 下弦	18 大 安 土 用	19 赤 口
20 先 勝 大 寒	21 友 引	22 先 負	23 仏 滅	24 大 安	25 先 勝 旧正月 旧一月大 朔	26 友 引
27 先 負	28 仏 滅	29 大 安	30 赤 口	31 先 勝	1 友 引	2 先 負 上弦

株式会社 夏目製作所

<http://www.nazme.co.jp>

本 社 TEL. (03) 3813-3251 FAX. (03) 3815-2002
大阪支社 TEL. (072) 646-9311 FAX. (072) 646-9300



▶ HP へアクセス

2020 2



月 火 水 木 金 土 日

27 先負	28 仏滅	29 大安	30 赤口	31 先勝	1 友引	2 先負 上弦
3 仏滅 節分	4 大安 立春	5 赤口	6 先勝	7 友引	8 先負 針供養	9 仏滅 初午 望
10 大安	11 赤口 建国記念の日	12 先勝	13 友引	14 先負	15 仏滅	16 大安 下弦
17 赤口	18 先勝	19 友引 雨水	20 先負	21 仏滅	22 大安	23 赤口 天皇誕生日
24 友引 振替休日 旧二月小 朔	25 先負	26 仏滅	27 大安	28 赤口	29 先勝	1 友引

株式会社 夏目製作所

<http://www.nazme.co.jp>

本社 TEL. (03) 3813-3251 FAX. (03) 3815-2002
大阪支社 TEL. (072) 646-9311 FAX. (072) 646-9300



▶ HPへアクセス



月	火	水	木	金	土	日
24友 引 <small>振替休日 旧二月小</small>	25先 負	26仏 滅	27大 安	28赤 口	29先 勝	1友 引
2先 負	3仏 滅 <small>上巳・ひな祭り</small>	4大 安	5赤 口 <small>啓 蟄</small>	6先 勝	7友 引	8先 負
9仏 滅	10大 安 <small>望</small>	11赤 口	12先 勝	13友 引	14先 負	15仏 滅
16大 安 <small>社 日</small>	17赤 口 <small>彼 岸 彼岸入り</small>	18先 勝	19友 引	20先 負 <small>春分の日 春 分 彼岸中日</small>	21仏 滅	22大 安
23赤 口 <small>彼岸明け</small>	24先 負 <small>旧三月大</small>	25仏 滅	26大 安	27赤 口	28先 勝	29友 引
30先 負	31仏 滅	<div>株式会社 夏目製作所</div> <div>http://www.nazme.co.jp</div> <div>本 社 TEL. (03) 3813-3251 FAX. (03) 3815-2002</div> <div>大阪支社 TEL. (072) 646-9311 FAX. (072) 646-9300</div> <div> HPへアクセス</div>				

2019

1	2	3	4
月 火 水 木 金 土 日	月 火 水 木 金 土 日	月 火 水 木 金 土 日	月 火 水 木 金 土 日
1 2 3 4 5 6	1 2 3	1 2 3	1 2 3 4 5 6 7
7 8 9 10 11 12 13	4 5 6 7 8 9 10	4 5 6 7 8 9 10	8 9 10 11 12 13 14
14 15 16 17 18 19 20	11 12 13 14 15 16 17	11 12 13 14 15 16 17	15 16 17 18 19 20 21
21 22 23 24 25 26 27	18 19 20 21 22 23 24	18 19 20 21 22 23 24	22 23 24 25 26 27 28
28 29 30 31	25 26 27 28	25 26 27 28 29 30 31	29 30

5	6	7	8
月 火 水 木 金 土 日	月 火 水 木 金 土 日	月 火 水 木 金 土 日	月 火 水 木 金 土 日
1 2 3 4 5	1 2	1 2 3 4 5 6 7	1 2 3 4
6 7 8 9 10 11 12	3 4 5 6 7 8 9	8 9 10 11 12 13 14	5 6 7 8 9 10 11
13 14 15 16 17 18 19	10 11 12 13 14 15 16	15 16 17 18 19 20 21	12 13 14 15 16 17 18
20 21 22 23 24 25 26	17 18 19 20 21 22 23	22 23 24 25 26 27 28	19 20 21 22 23 24 25
27 28 29 30 31	24 25 26 27 28 29 30	29 30 31	26 27 28 29 30 31

9	10	11	12
月 火 水 木 金 土 日	月 火 水 木 金 土 日	月 火 水 木 金 土 日	月 火 水 木 金 土 日
1 2 3 4 5 6 7 8	1 2 3 4 5 6	1 2 3	1
9 10 11 12 13 14 15	7 8 9 10 11 12 13	4 5 6 7 8 9 10	2 3 4 5 6 7 8
16 17 18 19 20 21 22	14 15 16 17 18 19 20	11 12 13 14 15 16 17	9 10 11 12 13 14 15
23 24 25 26 27 28 29	21 22 23 24 25 26 27	18 19 20 21 22 23 24	16 17 18 19 20 21 22
30	28 29 30 31	25 26 27 28 29 30	23 24 25 26 27 28 29
			30 31

2020

1	2	3	4
月 火 水 木 金 土 日	月 火 水 木 金 土 日	月 火 水 木 金 土 日	月 火 水 木 金 土 日
1 2 3 4 5	1 2	1	1 2 3 4 5
6 7 8 9 10 11 12	3 4 5 6 7 8 9	2 3 4 5 6 7 8	6 7 8 9 10 11 12
13 14 15 16 17 18 19	10 11 12 13 14 15 16	9 10 11 12 13 14 15	13 14 15 16 17 18 19
20 21 22 23 24 25 26	17 18 19 20 21 22 23	16 17 18 19 20 21 22	20 21 22 23 24 25 26
27 28 29 30 31	24 25 26 27 28 29	23 24 25 26 27 28 29	27 28 29 30
		30 31	

<div>六　　曜</div>
<div>ろくよう</div> 六曜は14世紀ごろに中国から日本に伝えられましたが、広く行われるようになったのは幕末以降のことです。時代とともにその名称や順序も変遷しており、現在は、1日毎に先勝、友引、先負、仏滅、大安、赤口の順になるものとされています。また、旧暦の各1日(朔日)もこの順に始まるものとされています。つまり、旧暦の1月1日は先勝から、2月1日は友引からと順次始まり、1巡後の7月1日から再び先勝から始まります。意味の解釈は様々で、どれが正しいという基準はありません。以下では一般的な解釈を示しました。読み方は、前に書いたものほどよく使われます。
<div>せんかち・せんしょう・さきかち</div> 先勝 <div>先んずれば勝つ。午前中は吉で午後は凶。早ければ良い。万事に急ぐことが良い。急用や訴訟に吉。</div>
<div>ともびき・ゆういん</div> 友引 <div>凶事に友を引くという意味があるので葬儀は慎む日とされている。その他の事では何事も引き分けて勝負のつかない日。朝晩は吉、正午のみ凶。</div>
<div>せんまけ・さきまけ・せんぶ</div> 先負 <div>先勝の逆で先んずれば負ける。勝負事や急用はなるべく避け、万事控え目が良い。午前中は凶、午後は吉。</div>

<div>二十四節気</div>
<div></div>
<div>春分を基点として一年の太陽の黄道を24等分し、それぞれの節気をあてて季節の推移を知るようにしたもので、二千年も前の中国の『前漢書律曆志』という書物にすでに見られる。</div>
<div> <div><div>りっ</div><div>しゅん</div></div> <div>立　　春</div> <div>もっとも寒い日で、この日以降しだいに暖かさが増し春に入るとされる。節分の翌日にあたり、かつてはこの日を年初とした。八十八夜、二百十日などはこの日から数える。</div> <div><div>う</div><div>すい</div></div> <div>雨　　水</div> <div>雪が雨に変わり草木の発芽を促すころ。</div> <div><div>けい</div><div>ちつ</div></div> <div>啓　　蟄</div> <div>啓は「ひらく」蟄は「もぐる」の意味で、穴にこもって冬ごもりしていた虫が這い出してくる時期。</div> <div><div>しゅん</div><div>ぶん</div></div> <div>春　　分</div> <div>春を半分に分ける日の意味で、昼と夜の長さがほぼ等しくなる（実際昼夜同じ長さになるのは春分の3日前である）。彼岸の中日。</div> <div><div>せい</div><div>めい</div></div> <div>清　　明</div> <div>草木の芽がはつきりと萌え出し、万物が清く明るくなる時期。</div> <div><div>こく</div><div>う</div></div> <div>穀　　雨</div> <div>百穀を生じる雨という意味で、穀物の発芽を促す雨が降るころ。</div> <div><div>りっ</div><div>か</div></div> <div>立　　夏</div> <div>この日より夏に入るとされる。春分と夏至の中間にあたる。</div> <div><div>しょう</div><div>まん</div></div> <div>小　　満</div> <div>麦の穂が出、やや満足のできるころ。</div> <div><div>ぼう</div><div>しゅ</div></div> <div>芒　　種</div> <div>芒のある穀物を植えるという、田植えの時期。</div> <div><div>げ</div><div>し</div></div> <div>夏　　至</div> <div>太陽が黄経90度に達し、昼がもっとも長くなる日（実際一番長い日は夏至の7日後である）。</div> <div><div>しょう</div><div>しょ</div></div> <div>小　　暑</div> <div>梅雨が上がって、暑くなってくる時期。</div> <div><div>たい</div><div>しょ</div></div> <div>大　　暑</div> <div>大いに暑い時期。</div> </div>
<div> <div><div>りっ</div><div>しゅう</div></div> <div>立　　秋</div> <div>この日より秋に入るとされる。実際にはまだまだ暑くこの日以降の暑さを残暑という。</div> <div><div>しょ</div><div>しょ</div></div> <div>処　　暑</div> <div>処は「とどまる」の意味で、暑さがおさまる時期。</div> <div><div>はく</div><div>ろ</div></div> <div>白　　露</div> <div>秋の気配が深まり、野草にしらつゆが見え出すころ。</div> <div><div>しゅう</div><div>ぶん</div></div> <div>秋　　分</div> <div>春分と同じく、秋を二分する日の意味で、昼と夜の長さがほぼ等しくなる（実際昼夜同じ長さになるのは秋分の3日後である）。秋の彼岸の中日。</div> <div><div>かん</div><div>ろ</div></div> <div>寒　　露</div> <div>寒さで露が冷たく感じられる時期。</div> <div><div>そう</div><div>こう</div></div> <div>霜　　降</div> <div>朝夕の気温が下がり、霜の降り始める時期。</div> <div><div>りっ</div><div>とう</div></div> <div>立　　冬</div> <div>この日より冬に入るとされる。秋分と冬至の中間にあたる。</div> <div><div>しょう</div><div>せつ</div></div> <div>小　　雪</div> <div>北風が強くなり、雪がちらつく時期。</div> <div><div>だい</div><div>せつ</div></div> <div>大　　雪</div> <div>大いに雪が降るようになる時期。</div> <div><div>とう</div><div>じ</div></div> <div>冬　　至</div> <div>太陽が黄経270度に達し、昼がもっとも短くなる日（実際一番短い日は冬至の15日前である）。カボチャを食べ、柚子湯に入ると風邪をひかないと言われる。</div> <div><div>しょう</div><div>かん</div></div> <div>小　　寒</div> <div>寒さがすこしきびしくなるころ。寒の入り。</div> <div><div>だい</div><div>かん</div></div> <div>大　　寒</div> <div>大いに寒い時期。</div> </div>

<div>雑　　節</div>
<div>にじゅうしせつき</div> 二十四節気のほかにもうけられた暦日で、日本の稲作に合わせた季節の区切りとしたものが多い。
<div>ぜつ　　ぶん</div> <div>季節の分かれめの意味で、元々立春、立夏、立秋、立冬の前日をいうが、現在では立春の前日の特称となっている。古くは立春を一年の始めとしたため、大晦日の意味を持つ、そのため俗に年とり、追儺といって、豆をまいて、一年の邪神や災厄を追い払い、来る年の招福の行事が行なわれる。</div> <div><div>はつ</div><div>うま</div></div> <div>初　　午</div> <div>二月の最初の午の日。和銅四年二月初午の日に京都伏見稲荷で祭祀が行なわれたのが始めとされ、各地の稲荷神社で初午祭が行なわれる。</div> <div><div>はちじゅう</div><div>はち　や</div></div> <div>八　十八夜</div> <div>立春から数えて八十八日目。この日以降は霜がなく、種まき、茶摘みなどを始める時期とされている。</div> <div><div>にゅう</div><div>ばい</div></div> <div>入　　梅</div> <div>太陽が黄経80度に達する日で、梅雨に入る日とされている。</div> <div><div>はん</div><div>げ　しょう</div></div> <div>半　夏生</div> <div>夏至から十一日目。半夏（からすびしゃく・サトイモ科）という薬草（吐気どめ）が生えるころで、梅雨明けとされ、田植えの最終日の目安とされている。</div> <div><div>ど</div><div>よう</div></div> <div>土　　用</div> <div>本来は立春、立夏、立秋、立冬の前十八日間を言うが、現在では夏の土用（立秋前の十八日間）をさす。陰陽五行説の土が物を変化させるという考えの「土旺用事」を略して土用と言い、季節を土用が変えていくことを意味する。夏には、土用干しといって衣類の虫干しをしたり、土用の丑の日にウナギを食べて暑気あたりをさける習慣がある。</div> <div><div>に　ひやくとう　か</div></div> <div>二　百　十　日</div> <div>立春から数えて二百十日目。台風の襲来が多く、稲の開花期にあたる事から、農家にとって厄日とされる。</div> <div><div>に　ひやくは　つ　か</div></div> <div>二　百　二十　日</div> <div>立春から数えて二百二十日目。二百十日と同じ意味。</div>
<div>ひ　　がん</div> <div>彼　　岸</div> <div>春分、秋分の前後7日間。読経、墓参などの仏事を行なって西方浄土にいる祖先の霊をなぐさめるもので、太陽が真西に沈むこの時期に行なわれる。</div> <div><div>う　　ら　　ぼん</div></div> <div>孟　　蘭　盆</div> <div>七月または八月の十三日から十六日に行なわれる祖先の霊を供養する仏事。迎え火、送り火をたき、精霊棚に食物などを供えるなどし、僧侶を招いて棚経を読んでもらう。</div> <div><div>しゃ</div><div>にち</div></div> <div>社　　日</div> <div>社は土地の神の意。春分、秋分にもっとも近い戌の日で、地神を祀って春は豊作を祈り、秋は収穫を感謝する祭りを行なう。</div> <div><div>おお　　はらえ</div></div> <div>大　　祓</div> <div>六月と十二月の晦日に国中の罪やけがれを祓う神事。</div> <div><div>ご　　せつ　　く</div></div> <div>五　節　句</div> <div>以下の各節句をいう。</div> <div><div>じんじつ</div></div> <div>人日の節句</div> <div>一月七日、陰陽道で人を一年で最初に占う日とされ、七草粥を祝う。</div> <div><div>じょうし</div></div> <div>上巳の節句</div> <div>三月三日、桃の節句、雛祭り。女兒の成長を祝い、幸福を祈る。</div> <div><div>たん　ご</div></div> <div>端午の節句</div> <div>五月五日、菖蒲の節句、子供の日。菖　蒲や　蓬で邪気を払う。男児の節句。</div> <div><div>たなばた</div></div> <div>七夕の節句</div> <div>七月七日、牽牛星と織女星を祭る行事。竹を立て五色の短冊に歌や文字を書き、願い事をする。</div> <div><div>ちようよう</div></div> <div>重陽の節句</div> <div>九月九日、菊の節句。易でいう陽数の九が重なることからいう。菊の花を酒にひたして飲む。</div>